



8月袁だより

令和8年8月1日

目黒区立大岡山保育園 園長

今年は気温の上下が激しく、暑すぎて水遊びやプール活動ができなかったり、涼しすぎて園庭遊びができたりするなど、これまでに経験したことのない夏を迎えています。世界中で天候が安定せず、人間が自然にどう立ち向かうか試されているような気がしています。予測不能の未来を生きていく子どもたちに、保育を通して何を経験させ伝えていくのかを模索している日々です。

5歳児クラスの子どもたちは、先日古シーツを使って縄跳びを編みました。長い布を三つ編みにすることは根気が要りましたが、全員が自分で編み上げました。完成した子から早速縄跳びの練習が始まりました。縄跳びは簡単そうに見えますが、縄を回し、タイミングよく飛び越え、リズムよく繰り返すといったいくつかの動きを同時に行う活動です。ある日うまく跳べなくて困っている友達に、丁寧に跳び方を教えている子がいました。何度か挑戦するうちに初めて跳べた時、自分のことのように喜ぶと、教えてもらっていた子が「ありがとう」とお礼を言っていました。教えていた子にこの場面の話を聞いてみると恥ずかしそうにしながら「ありがとうって言ってもらえて嬉しかった。嬉しすぎてトイレで泣いちゃったよ」と話してくれました。挑戦してもうまいかない時やあきらめてしまいそうになる時に、友達が信じて見守ってくれることが、心強い支えになることがあるのだと思いました。縄跳びが跳べるようになった子の「ありがとう」は心からの感謝の思いにあふれていたからこそ、その思いが伝わり涙につながったのだと思います。改めて人に優しくしたり感謝したりすることで心が動く大切さを感じた出来事でした。人を思いやる気持ちは教えるものではなく、自然と生まれるものです。まわりの大人との信頼関係を軸に、人を信じる気持ちや優しくしたいと思う気持ちを育めるような環境を整えていきます。

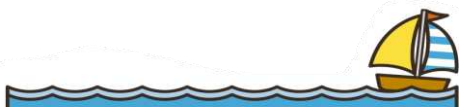


8月の予定

プール閉まり

中旬

身体測定・避難訓練



9月の予定

引き取り訓練

中旬

身体計測・避難訓練



看護師より

「プライベートゾーン」について

3・4・5歳クラスで健康教育をしました。

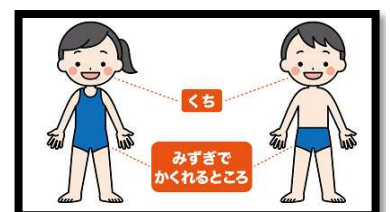
シャワー・プール・水遊びと裸になることが多くなる季節でもあるので、身体は大切であることや特に大切なところ（プライベートゾーン）について絵本・パネルシアターを使って話をしました。

水着や下着で隠れる場所と口は身体の中でも特に大切な場所なので

- ・誰にも見せない、触れさせない
- ・お友達の場所も見ない、触らない
- ・嫌だと思ったら「イヤ！やめて！」と言っていい
- ・大人にすぐに伝える

『自分のからだは自分だけの大切なもの』

男女関係なく自分のことを大切に（友達のことも大切に）できるよう日々の生活の中でからだの大切さを伝えていきます。



～水遊び・プール遊びの様子～

いちご組 (0歳児クラス)

初めての水遊びをするいちご組は、冷たい水も、水のしぶきも全部が新鮮な様子で遊んでいます。保育士がホースから水を出すと手を伸ばしてその水を掴もうとしています。でも掴んでいるはずなのに掴めず「あれ」という表情で自分の手を開いて見て不思議そうにしています。また、テラスの柵に透明のホースを設置し、そこから水が流れてくると、その水に「きゃー」と声をあげ、大興奮する子もいれば、その仕組みが気になるのか、ホースを触ったり見つめたりする子もいました。水遊びを通して、色々な不思議や発見を子どもたちと楽しみたいと思います。



りんご組 (2歳児クラス)



水鉄砲がお気に入り、遠くから保育士にかけてニヤリとし、保育士との水の掛け合いを楽しんでいます。的になる輪っかをつると、そこをめがけて水を飛ばします。「見て、消防士みたい」と憧れの消防士になったり、「バイキンバイバイ」とお掃除ごっこになったり、水鉄砲から見立て、遊びが広がり楽しむ姿があります。毎日繰り返し遊ぶうちに、ある子が水鉄砲を上に向けると噴水のように水が上がることに気づきました。他にも水鉄砲を使うとペットボトルに水を入れやすいことに気づいたり、水撒きホースから水鉄砲に水を入れることはできるのかを試したり、「こうしたらどうなるかな」と考えて遊ぶ子どもたちに感心する毎日です。



アヒル泳ぎやワニ泳ぎなど自分の好きな泳ぎを繰り返し楽しんでいます。その中で友達が顎を浸けてワニ泳ぎをしたり、顔を浸けて潜って泳げるようになっている姿から刺激をもらい“自分もできるようになりたい”と挑戦する姿が見られます。挑戦する時は水面を見つめて動きをイメージをし、呼吸を整えてから友達の泳ぎを再現しようとしています。見ている保育士にもドキドキが伝わります。見事に成功するとはじけるような笑顔を見せてくれるので。保育士が「できたね」と声を掛けると「もう一回するから見てね」と活き活きと披露しています。

これからも一人ひとりの挑戦する気持ちを認めたり、できた喜びに共感したりしながら一緒に楽しんでいます。

れもん組 (4歳児クラス)

